

～ ふるさとを愛し 自ら学び 未来を切り拓く建屋っ子の育成 ～

建小 NEWS

養父市立建屋小学校 学校だより
令和5年11月24日 No.18



「学校」「家庭」「地域」「関係機関」の4者協働による 建屋小校区秋のフェスティバル ～コミスクの新たなステージ～

11月17日（金）・18日（土）の2日間、「秋のオープンスクール」を開催しました。1日目は、道徳の授業など3時間の授業と「たきのやTime（学習タイム）」を公開しました。平日ということもあり来校者は25名と少なかったものの、家族を前にはりきって発表する子ども達の姿を見ていただくことができました。

2日目は「ふるさとたきのや物語」の本番で、朝早くから大勢の方が駆けつけてくださいました。みぞれ交じりの雨が降る大変寒い朝でしたが、校区の皆様による作品展や餅の配布・カフェもあり、大賑わいの半日となりました。

また今年も、三谷こども園の5歳児7名が「ソーラン節」でオープニングを盛り上げてくれました。事前に3回小学校を訪れ、練習を重ねてきたとあって、みんな自信にあふれ、輝いて見えました。小学校入学まで残り4ヶ月。12月12日（火）の「幼小交流会」、2月17日（土）の「冬のオープンスクール」でも、「小学校入学体験」を計画しています。



らいおんカフェ



ミニミニコンビニ

※用意していた椅子だけでは足りず、急遽児童用の椅子を持ち込んで対応したほどの観客でした。寒いなか本当にありがとうございました。



作品展



ちよんまげ寿司販売



建屋地域活性化対策委員会との共催で行った今年の「建屋小校区秋のフェスティバル」には、**のべ223名**の来校者がありました。校区外からもたくさんの方に来校いただき、本校の特色ある教育活動を参観いただくことができ、大変嬉しく思います。何より、普段お世話になっている「たきのやっこ応援団」の皆様や校区の皆様へ、感謝の心をお届けできたことが最大の喜びです。インフルエンザで参加できなかった児童や、舞台に立つのが精一杯で、友だちや先生に協力してもらいながら台詞を言った児童もいます。「声が小さく聞き取りづらかった」との感想も多く寄せられましたが、こうした事情があることをご理解いただけましたら幸いです。

コミュニティ・スクールがめざす「4者協働による学校づくり」を実践できた一日でした。



「緊張した」と言いながらも、個性豊かな演技を披露した1・2年生。



*劇の後、「来年は6年生みたいな演技がしたい」と下級生の子も達が拍手を送りました。最後にふさわしい熱演ぶりでした。



～地域の方から 心温まる「お手紙」をいただきました～

日頃、未来を担う子ども達へ熱い想いで教育に携わって頂いておりますこと、この地域に住む者として心より感謝致しております。

先日、「ふるさとたきのや物語」を参観させて頂きました。皆それぞれの役を立派に演じておられ、先生方の御指導、御苦勞の賜ものと思います。

当時、在校生でしたので感無量、アンケート用紙が配られておりましたのでペンを取りました。

あの頃、三谷小学校が建屋中学校の本校、建屋小学校は分校、卒業式や行事はマイクロバスで三谷の本校でありましたので行きました。

六年、中学三年の四年間は同じ教室で授業を受けました。あれこれ思い出が詰まっております。

八十六才にしてあの懐かしい校歌が聞かれるとは思ってもよらぬことでした。口ずさみずにはおられません。同じ思いをされた方もあるのではないのでしょうか。

ひととき、昔を振り返らせる刻を作っていただきました事、厚くお礼申し上げます。今後ともこの地にお心をお寄せ下さいます様よろしく申し上げます。（便せん2枚に込められた思い、大切にしていきます。）